

岡山県感染症週報

2015年 第33週 (8月10日～8月16日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2015年 第33週 (8/10～8/16) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第31週 2類感染症 結核 1名 (40代 女)
 5類感染症 ジアルジア症 1名 (50代 男)
 第32週 5類感染症 ジアルジア症 1名 (60代 女)
 第33週 2類感染症 結核 5名 (20代 女 1名、40代 男 1名、50代 男 1名、80代 女 1名、
 90代 女 1名)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 9名
 (O157: 10代 男 1名・女 1名、30代 女 1名、60代 男 1名・女 1名、
 70代 男 1名・女 1名、90代 男 1名、100代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

- 手足口病は、県全体で194名 (定点あたり6.44 → 3.59人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○ヘルパンギーナは、県全体で86名 (定点あたり2.07 → 1.59人) の報告があり、前週より減少しました。

【第34週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 80代 女) の発生がありました。 (8月20日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第33週に9名の報告があり、岡山県の2015年第33週 (～8/16) までの累計報告数が、32名となりました。岡山県は、8月6日「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で194名 (定点あたり6.44 → 3.59人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市 (5.43人)、備北地域 (4.50人)、倉敷市 (4.36人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。全ての地域で患者は減少したものの、岡山市・倉敷市・備北地域・真庭地域では、発生レベル3が継続しています。流行のピークは過ぎたと思われますが、依然として多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。
3. **ヘルパンギーナ**は、県全体で86名 (定点あたり2.07 → 1.59人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (2.36人)、岡山市 (1.86人)、備前地域 (1.60人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。患者の発生は減少傾向にあります。例年8月中は流行がみられますので、今後も発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↗	★★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	★
感染性胃腸炎	↘	★	水痘	→	★
手足口病	↘	★★★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	↘	★	百日咳	↑	★★
ヘルパンギーナ	↘	★★	流行性耳下腺炎	↗	★★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎 (ロタウイルス) については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移: ↓: 2倍以上の減少 ↘: 1.1～2倍未満の減少 →: 1.1未満の増減
 ↗: 1.1～2倍未満の増加 ↑: 2倍以上の増加

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

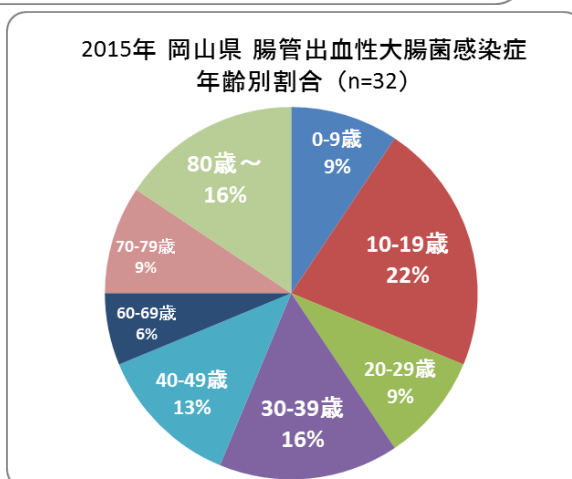
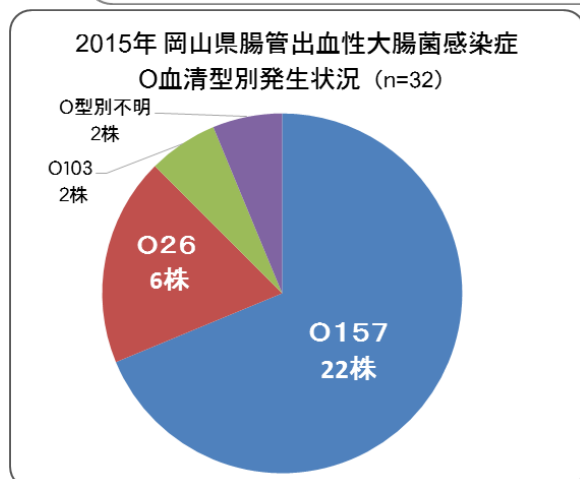
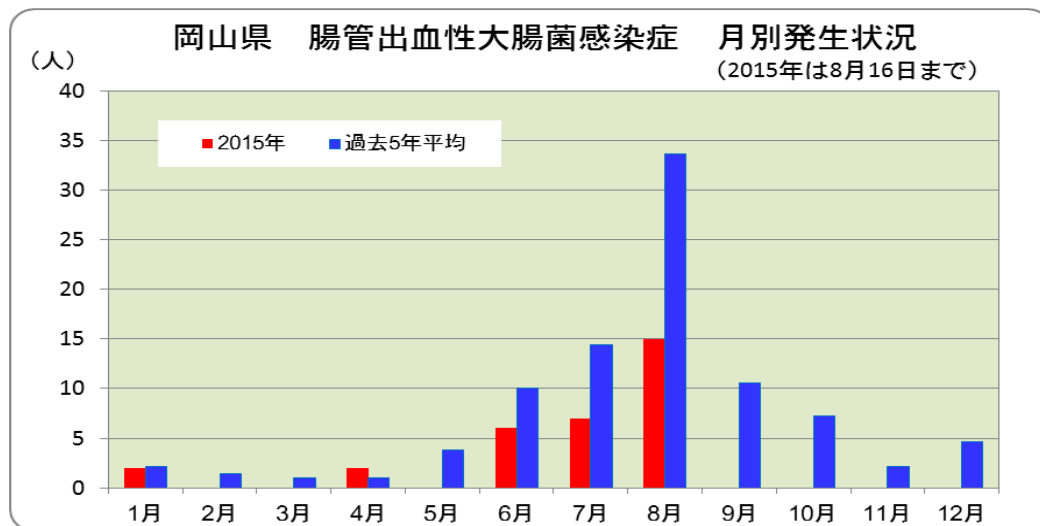
空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

今週の注目感染症

腸管出血性大腸菌感染症

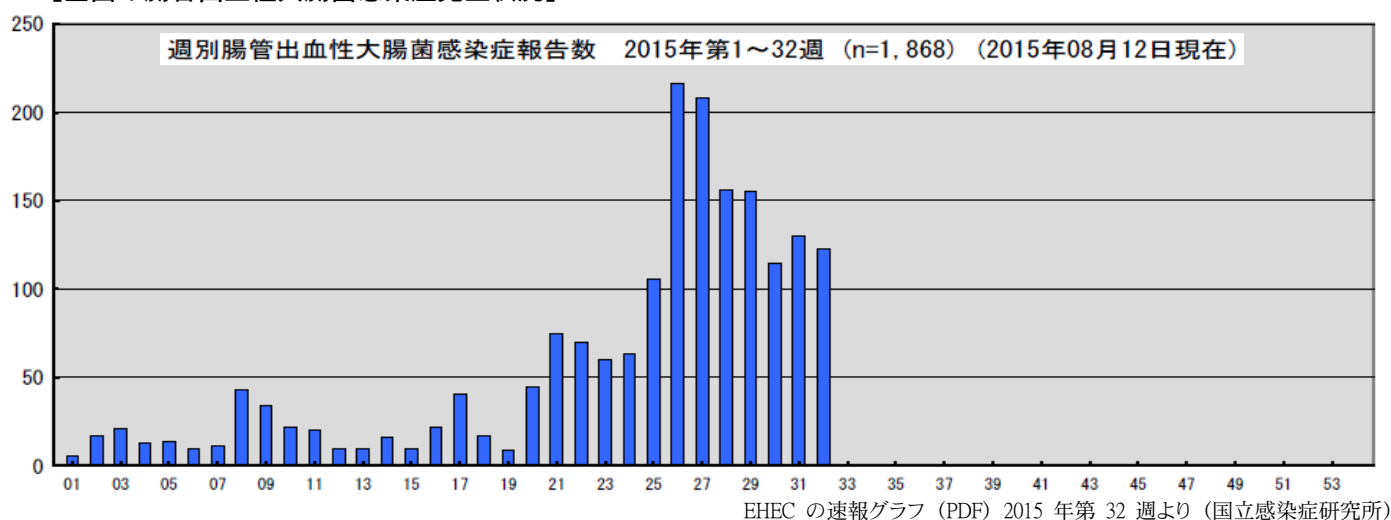
【岡山県の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

岡山県では、第33週に9名の報告があり、2015年8月16日までの累計報告数は32名となりました。8月上旬に倉敷市の養護老人ホームにおいて集団感染（O157）が発生したこともあり、第32週（8/3～）から患者報告数が増加しています。2015年に検出された菌のO血清型は、O157 22株、O26 6株、O103及びO型別不明 各2株で、O157の発生が多くなっています。年齢別割合は、10～19歳 22%、30～39歳及び80歳 16%、40～49歳 13%の順で高くなっています。



例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。手洗いなどを徹底するとともに食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉、特にハンバーグなどは中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

【全国の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】



全国の 2015 年第 32 週までの累計報告数は、1,868 名でした。週別患者報告数を見ると、第 20 週から増加し始め、第 26～27 週は集団発生の影響で一時的に増加がみられました。全国では、飲食店や保育施設、老人福祉施設などで集団感染（食中毒を含む）が報告されており、大阪府の保育施設で起きた集団発生（O26 VT1）では、患者と無症状病原体保有者をあわせて 100 例以上が報告されました。重症な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第 31 週までに累計 38 例（有症者 1168 例中）が報告されています。

[IDWR 速報データ 2015 年第 32 号（国立感染症研究所）](#)

【主な感染経路】

O157 をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便には腸管出血性大腸菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症 状】

多くの場合、3～5 日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状が出ます。抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。重症化すると、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症をおこし、時には死亡することもあります。

【予 防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品はなるべく食べきる等の注意が大切です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により、感染を予防することができます。特に、保育施設における集団発生が例年多いため、オムツの交換時の手洗いや、この季節には簡易プールなどの衛生管理にも注意が必要です。

[国立感染症研究所ホームページ 腸管出血性大腸菌感染症とは
腸管出血性大腸菌 Q&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 33週

（ 2015/08/10～2015/08/16 ）

2015年8月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	6	0.11	—	—	5	0.45	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	2	0.14	8	0.73	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	198	3.67	22	1.57	43	3.91	38	3.80	10	1.43	17	4.25	4	2.00	64	10.67
水痘	11	0.20	2	0.14	4	0.36	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	2	0.33
手足口病	194	3.59	76	5.43	48	4.36	24	2.40	12	1.71	18	4.50	6	3.00	10	1.67
伝染性紅斑	7	0.13	6	0.43	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	7	0.50	8	0.73	1	0.10	1	0.14	1	0.25	—	—	3	0.50
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	86	1.59	26	1.86	26	2.36	16	1.60	4	0.57	6	1.50	—	—	8	1.33
流行性耳下腺炎	46	0.85	6	0.43	4	0.36	2	0.20	1	0.14	—	—	1	0.50	32	5.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00 ） （空白： 定点なし）

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	－	－	－	－	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	2	0.14	8	0.73	1	0.10	2	0.29	－	－	－	－	3	0.50
感染性胃腸炎	198	3.67	22	1.57	43	3.91	38	3.80	10	1.43	17	4.25	4	2.00	64	10.67
水痘	11	0.20	2	0.14	4	0.36	－	－	2	0.29	1	0.25	－	－	2	0.33
手足口病	194	3.59	76	5.43	48	4.36	24	2.40	12	1.71	18	4.50	6	3.00	10	1.67
伝染性紅斑	7	0.13	6	0.43	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	0.02	－	－	－	－	－	－	1	0.14	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	86	1.59	26	1.86	26	2.36	16	1.60	4	0.57	6	1.50	－	－	8	1.33
流行性耳下腺炎	46	0.85	6	0.43	4	0.36	2	0.20	1	0.14	－	－	1	0.50	32	5.33
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	3	0.75	－	－	－	－					－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第33週 2015/08/10～2015/08/16)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	6	1	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	-	1	2	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	-	-	-	2	6	1	1	-	2	-	-	3	-
感染性胃腸炎	198	4	15	30	26	19	22	14	10	9	7	4	15	6
水痘	11	-	2	-	-	1	3	-	2	2	1	-	-	-
手足口病	194	1	24	78	31	16	10	15	5	6	4	-	2	2
伝染性紅斑	7	-	-	-	1	-	-	1	2	1	1	1	-	-
突発性発疹	21	-	9	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	86	-	10	20	20	13	12	2	4	1	1	-	3	-
流行性耳下腺炎	46	-	1	4	7	5	3	11	3	3	3	4	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1	-

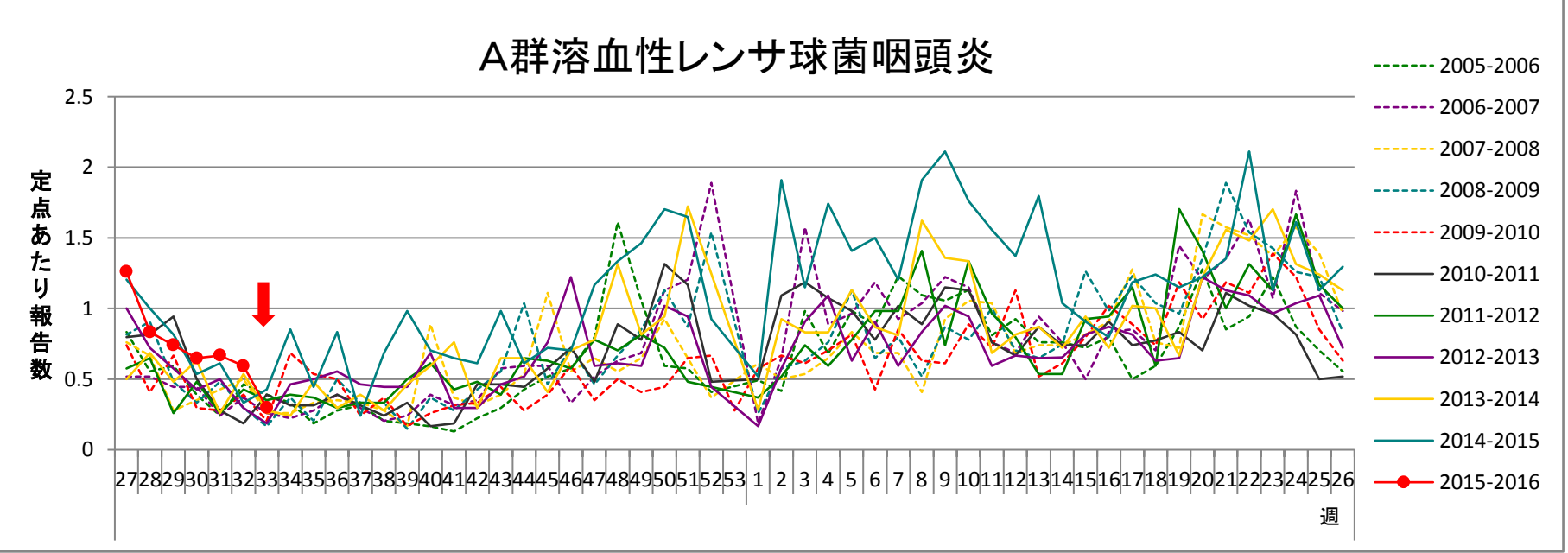
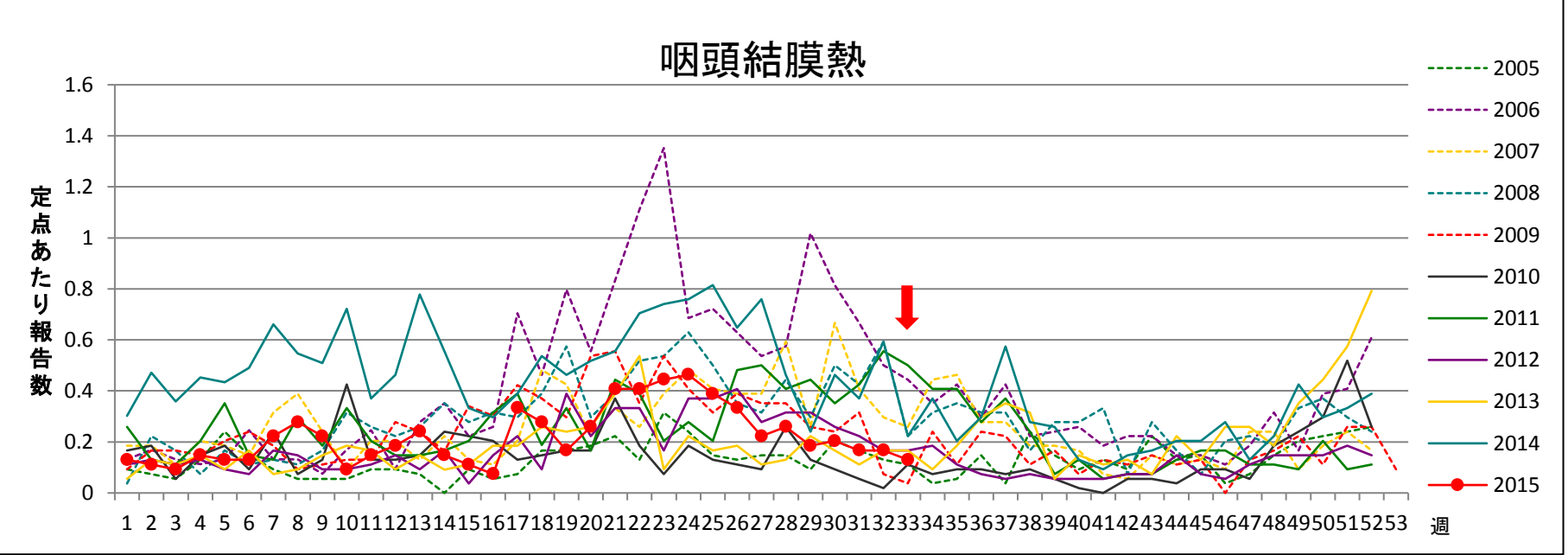
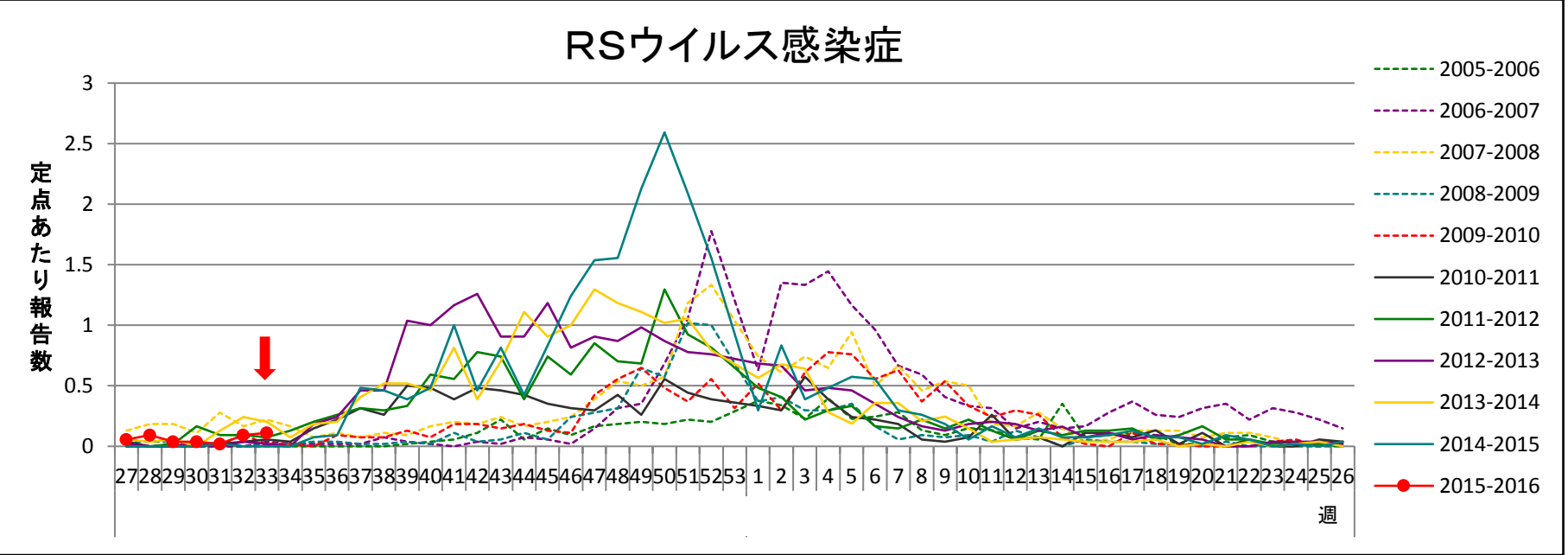
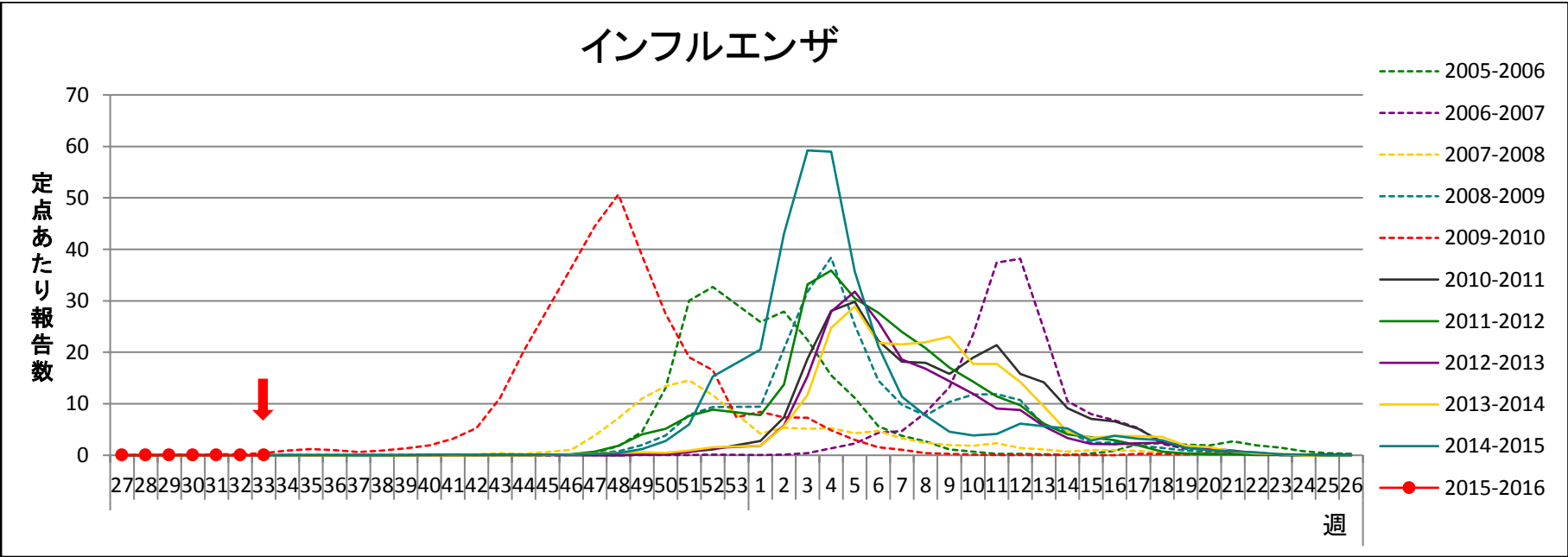
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

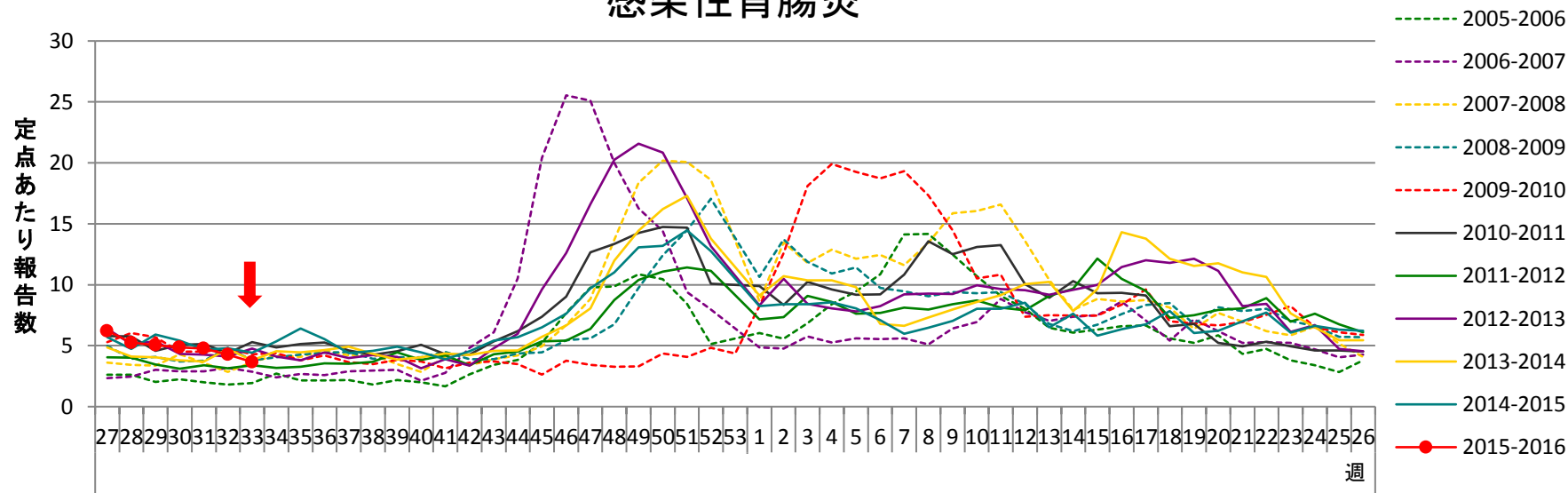
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 33 週

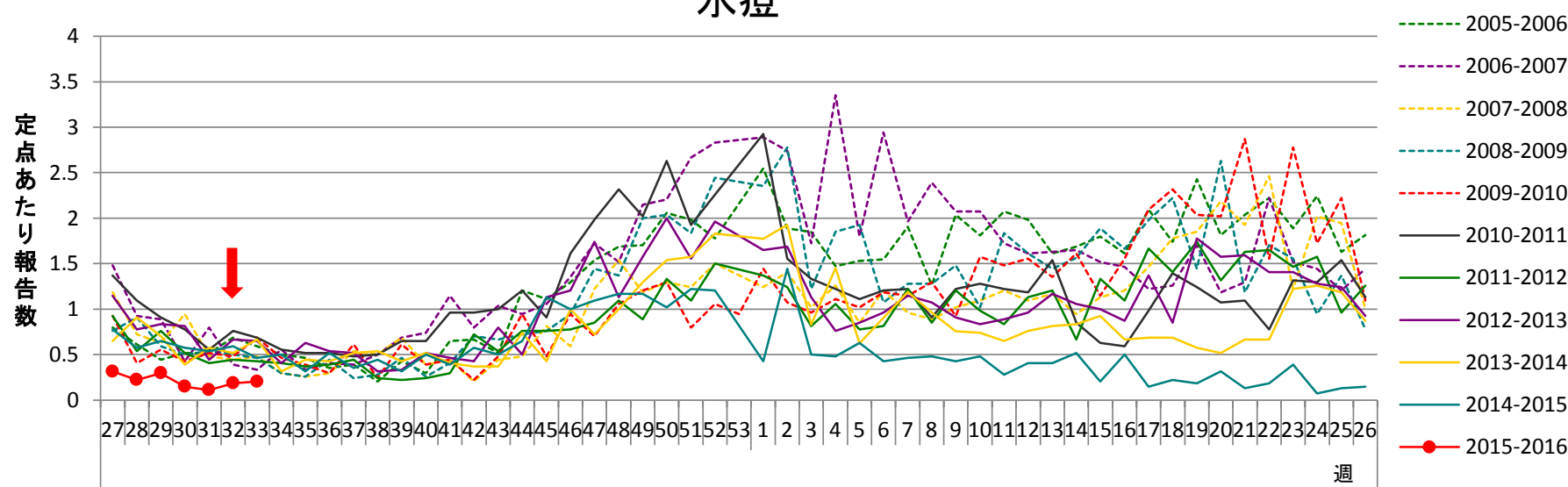
分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	5	211	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	1	－	腸管出血性大腸菌感染症	9	32	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	3	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	1	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	16	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	13	12	ウイルス性肝炎*3	－	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	25
急性脳炎*4		－	10	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	1	3	後天性免疫不全症候群	－	15	21	ジアルジア症	－	2	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	22	27
水痘(入院例に限る。)		－	4	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	10	21
播種性クリプトкокクス症		－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－



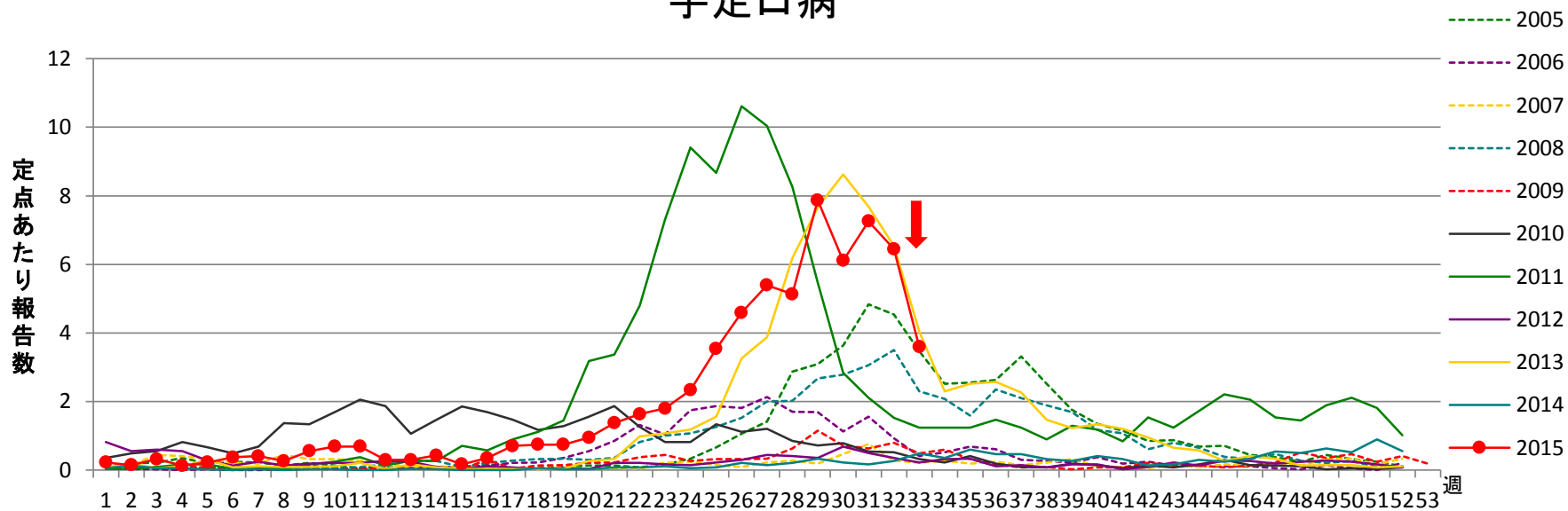
感染性胃腸炎



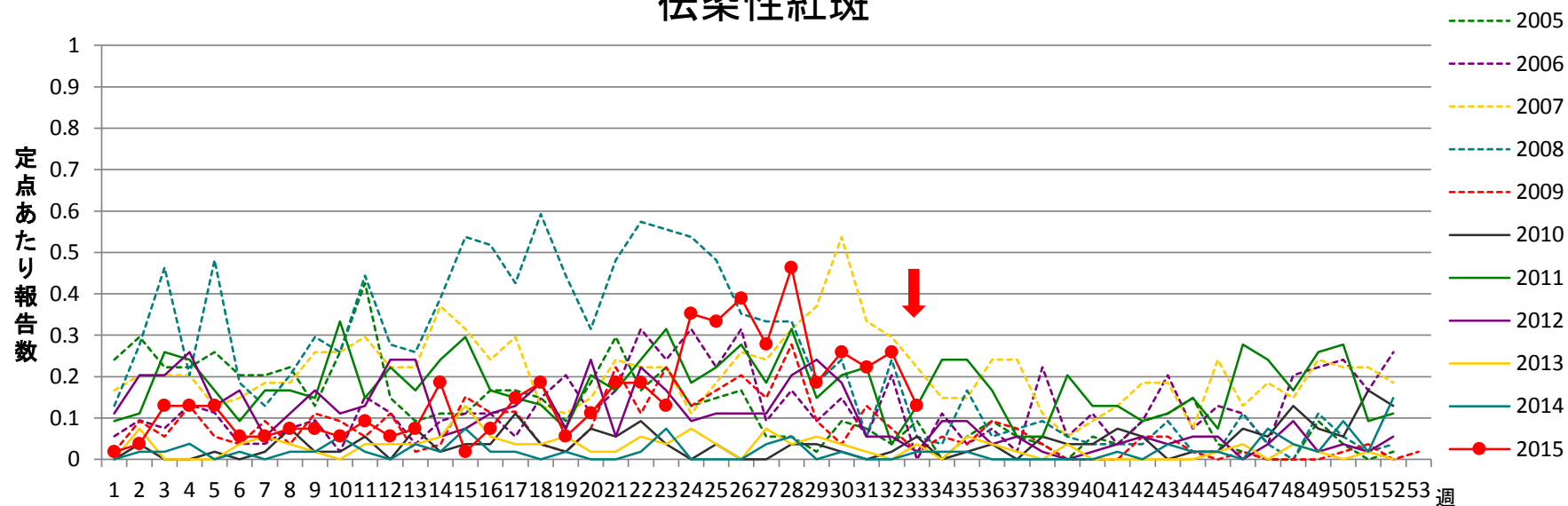
水痘



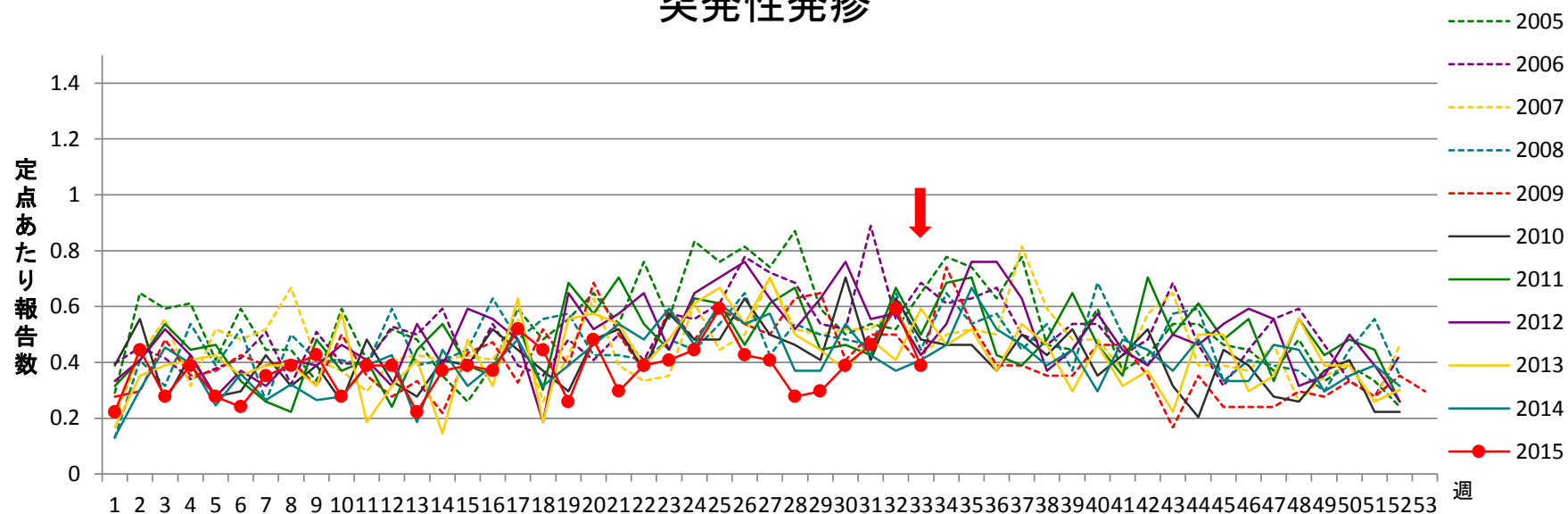
手足口病



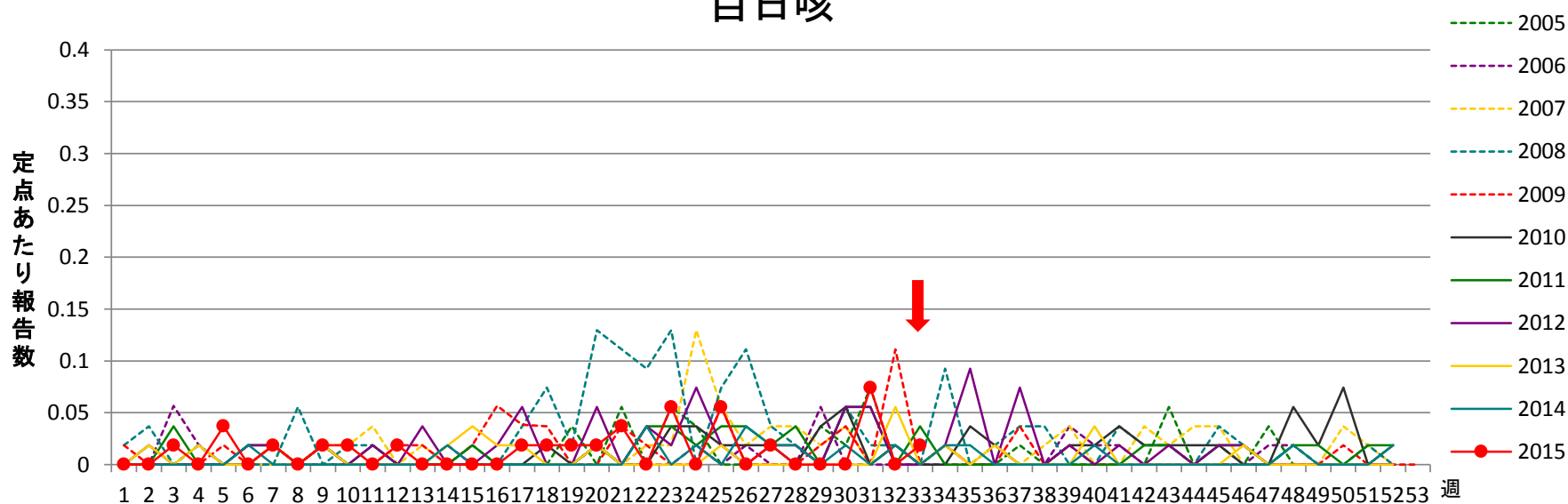
伝染性紅斑



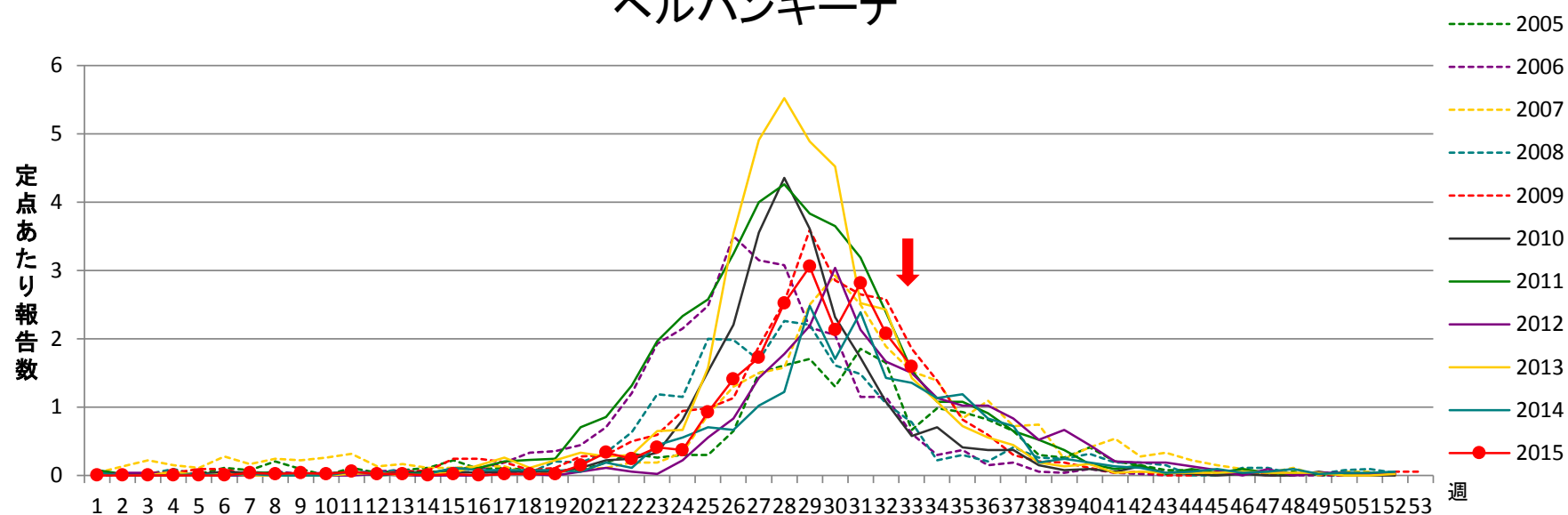
突発性発疹



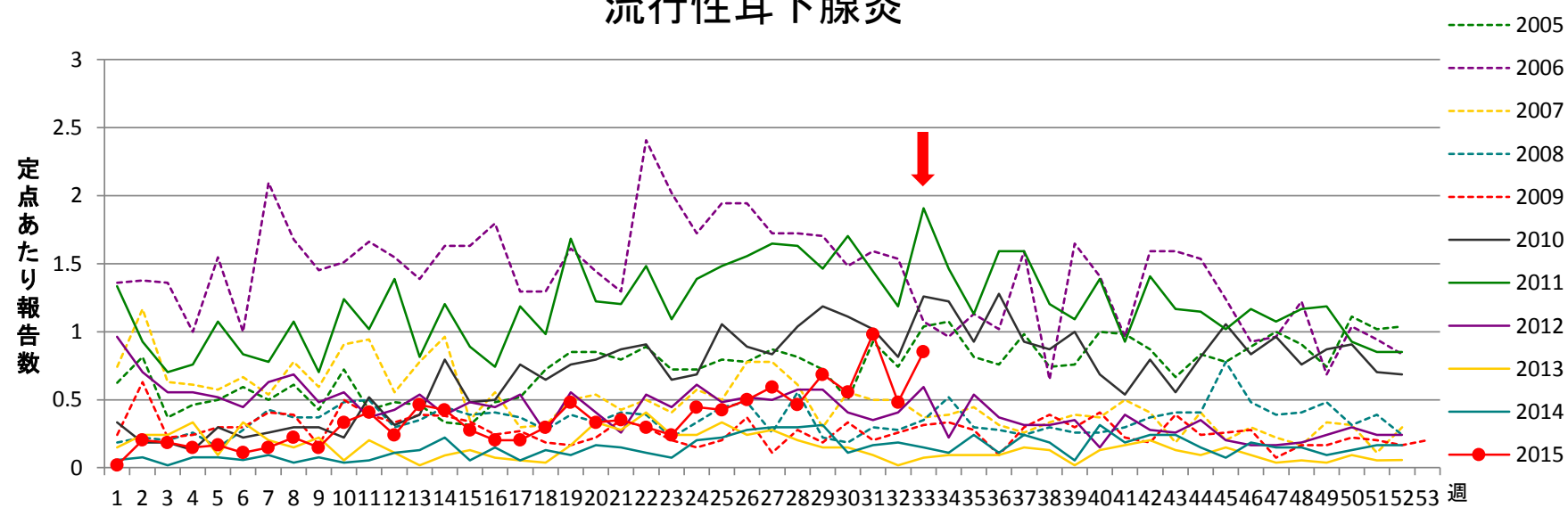
百日咳



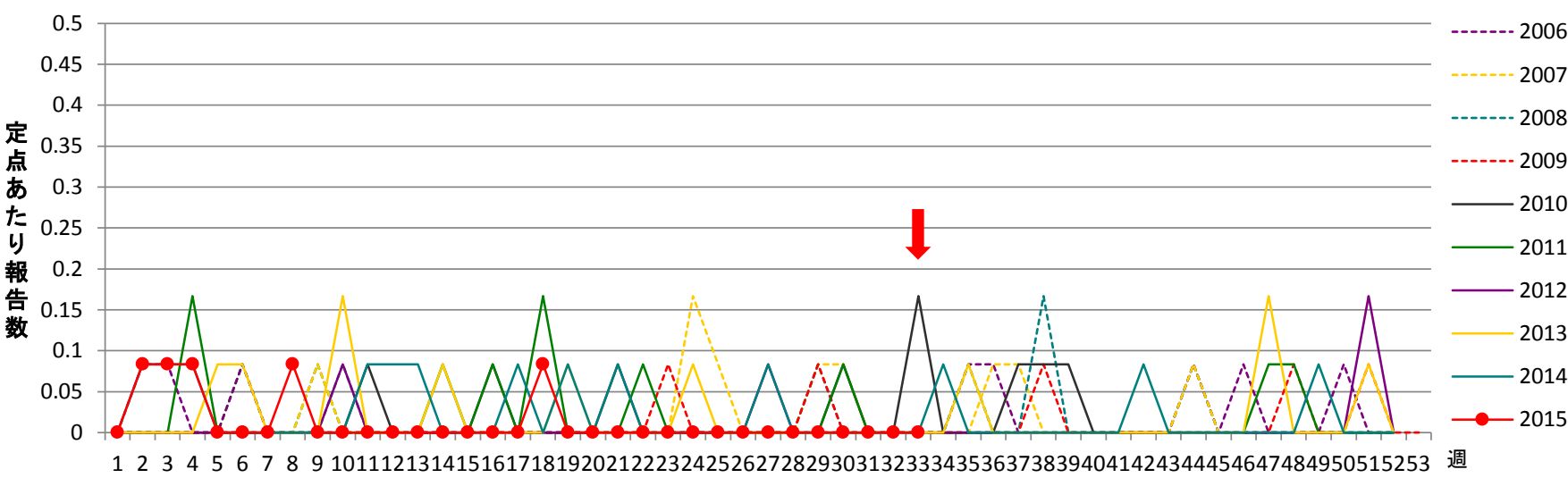
ヘルパンギーナ



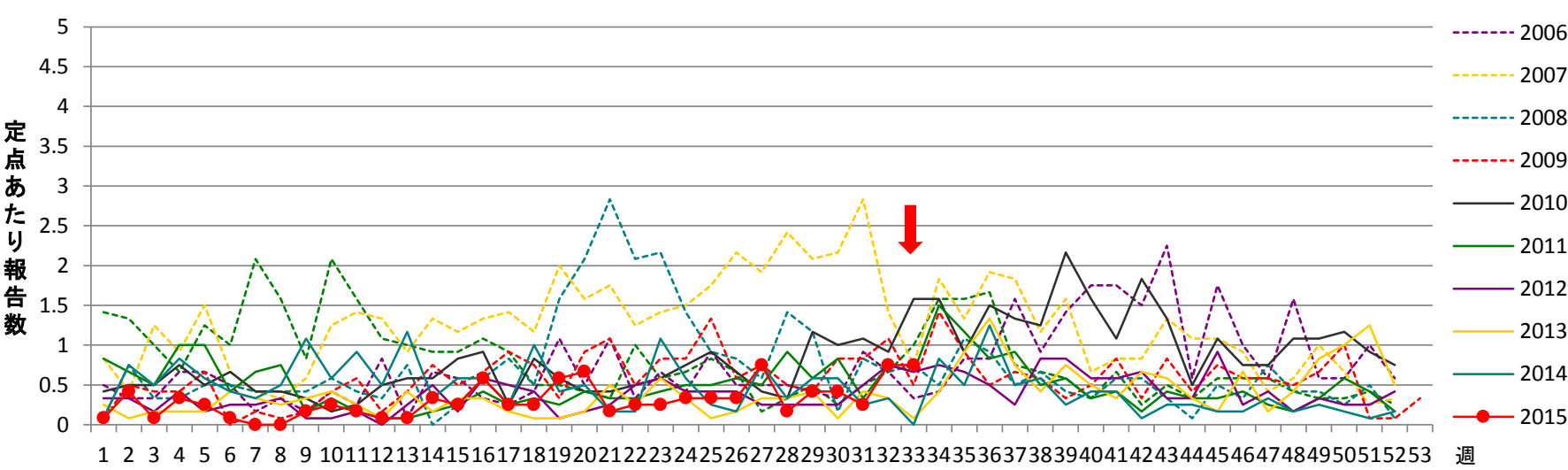
流行性耳下腺炎



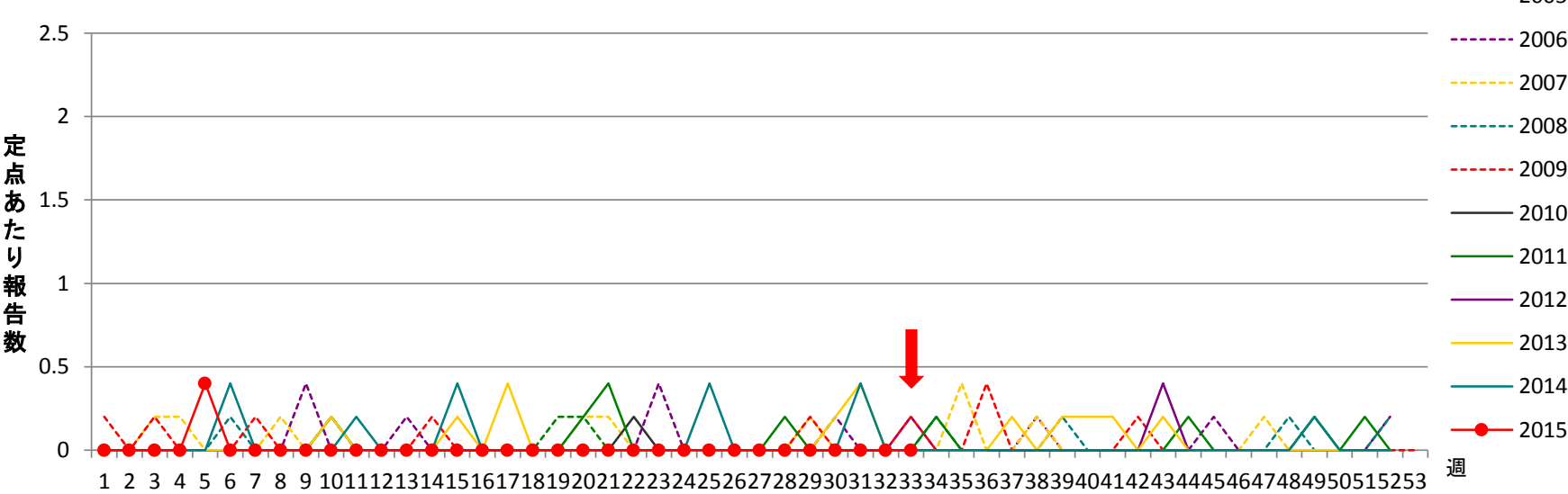
急性出血性結膜炎



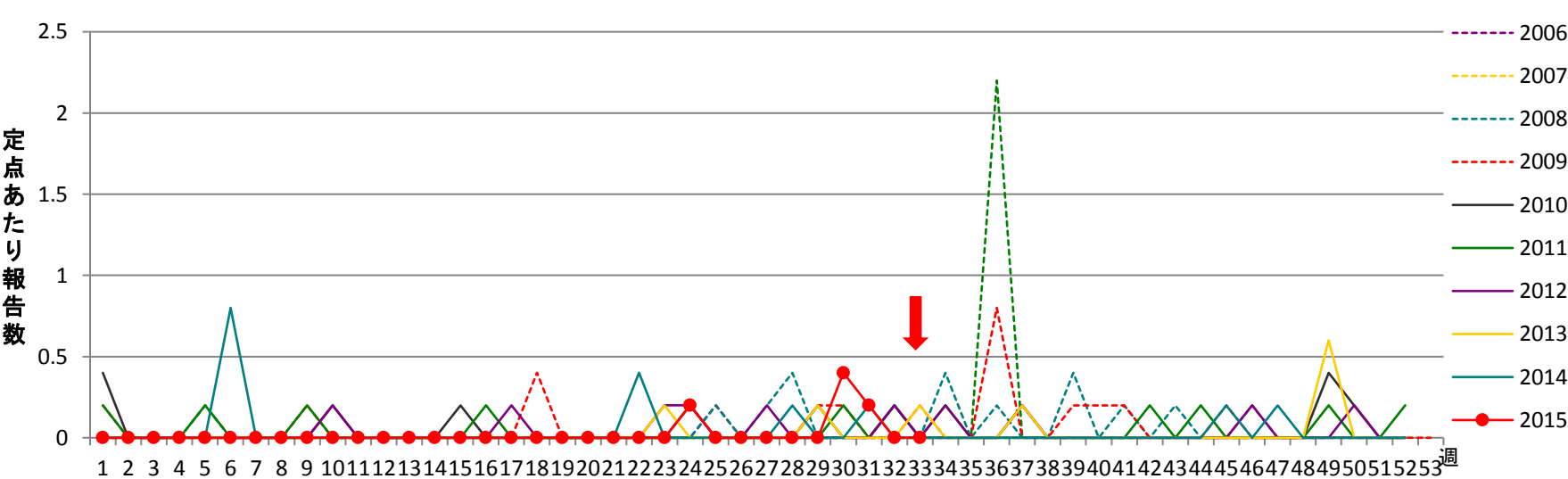
流行性角結膜炎



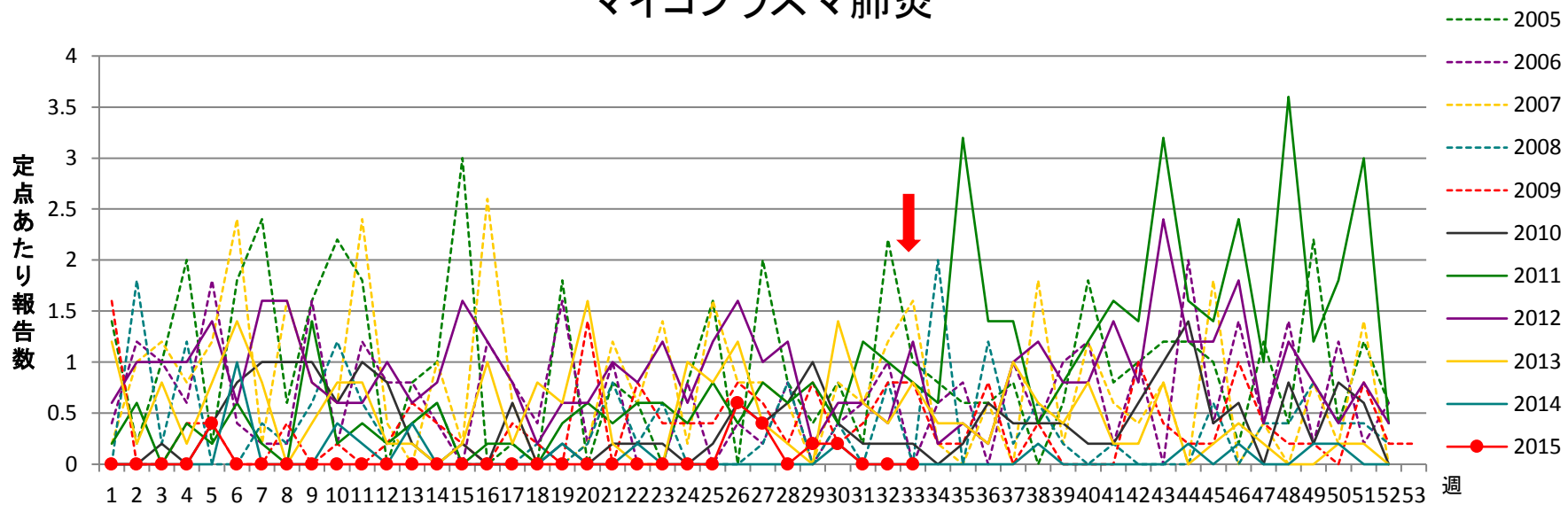
細菌性髄膜炎



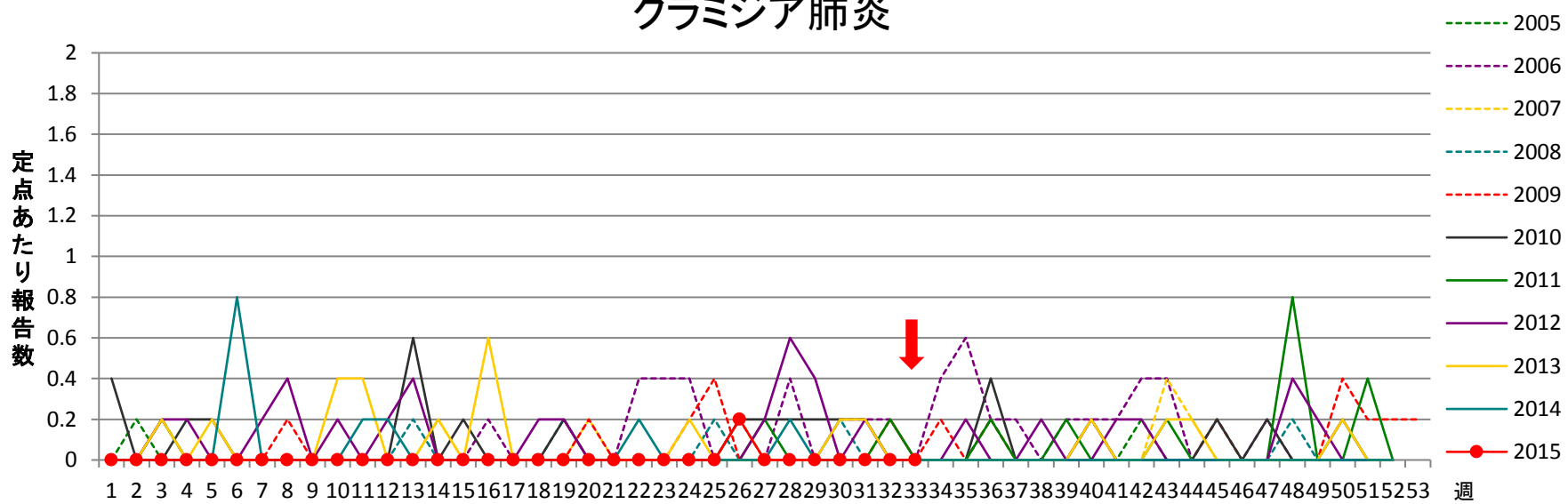
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

